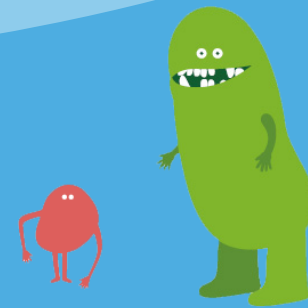
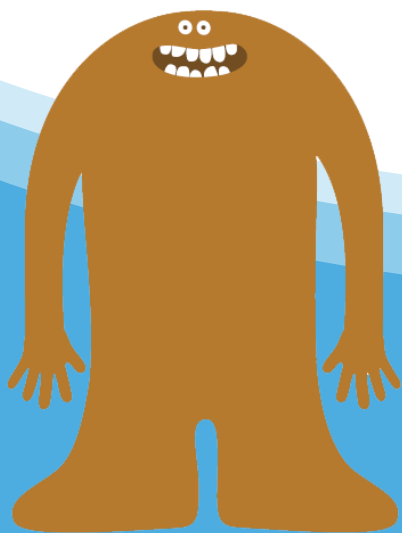


# 持続的成長の実現に向けて

CEO 寺本 克弘

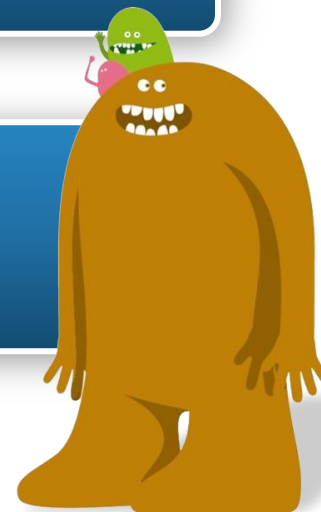
2018年3月7日



1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

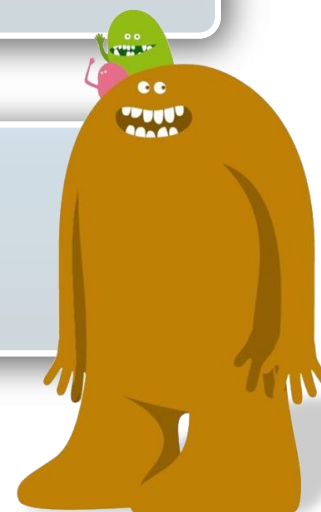
3. 中期経営計画の進捗



## 1. 2017年12月期連結業績概況

## 2. 2018年12月期見通し

## 3. 中期経営計画の進捗



# 2017年12月期通期連結業績概況 (IFRS)

■CMPセグメント\*<sup>1</sup>が好調に推移し、前期比、修正計画比ともCMPセグメントが寄与し増収増益。過去最高の売上、利益を達成。

(単位：百万円)	2016/12 通期実績(A)	2017/12 通期修正計画 (B) 2017/7/31時点	2017/12 通期実績(C)	前期比 増減率 ((C-A)/A)	計画比 増減率 ((C-B)/B)
売上高	244,968	273,000	282,422	15.3%	3.5%
コア営業利益* <sup>2</sup>	25,165	28,400	29,155	15.9%	2.7%
(コア営業利益率)	10.3%	10.4%	10.3%	-	-
営業利益	25,982	28,400	29,468	13.4%	3.8%
(営業利益率)	10.6%	10.4%	10.4%	-	-
金融損益	-237	-	523	-	-
持分法による投資利益	1,034	-	4,915	-	-
税引前当期利益	26,779	32,100	34,907	30.4%	8.7%
当期利益* <sup>3</sup>	18,606	23,900	25,146	35.2%	5.2%

基本的1株当たり 当期利益	150.64円	193.60円	203.85円
一株当たり配当金	50円	68円(予)	72円(予)
配当性向	33.2%	35.1%	35.3%

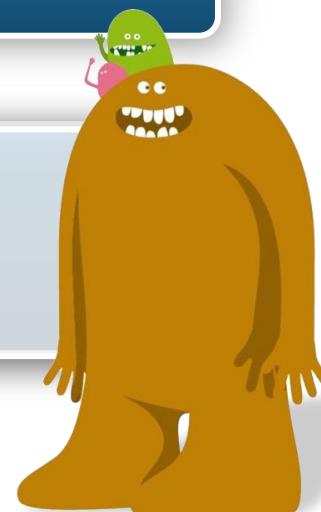
\*<sup>1</sup> CMPセグメント：コンポーネントソリューションセグメント

\*<sup>2</sup> コア営業利益：売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。 \*<sup>3</sup> 当期利益＝親会社の所有者に帰属する当期利益

1. 2017年12月期連結業績概況

2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗



# 2018年12月期通期連結業績見通し (IFRS)

- 引き続き好調なCMPセグメントが牽引し、営業利益ベースで10%以上の成長を目指す。

(単位：百万円)	2017/12 通期実績(A)	2018/12 通期計画(B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比増減率 ((B-A)/A)
売上高	282,422	308,000	25,578	9.1%
営業利益	29,468	32,600	3,132	10.6%
(営業利益率)	10.4%	10.6%	0.2pt	-
税引前当期利益	34,907	35,900	993	2.8%
当期利益*	25,146	25,700	554	2.2%
一株当たり配当金	72円(予)	73円(予)		
配当性向	35.3%	35.0%		

## Remarks :

- 産業用ロボット向け、一般産業向け減速機需要の増加
- 建設機械市場の好調継続による油圧機器事業売上増

## Remarks :

- 2017/12 通期実績の当期利益から持分法による投資利益約28億円を除くと増加率2.2% → 15.0%

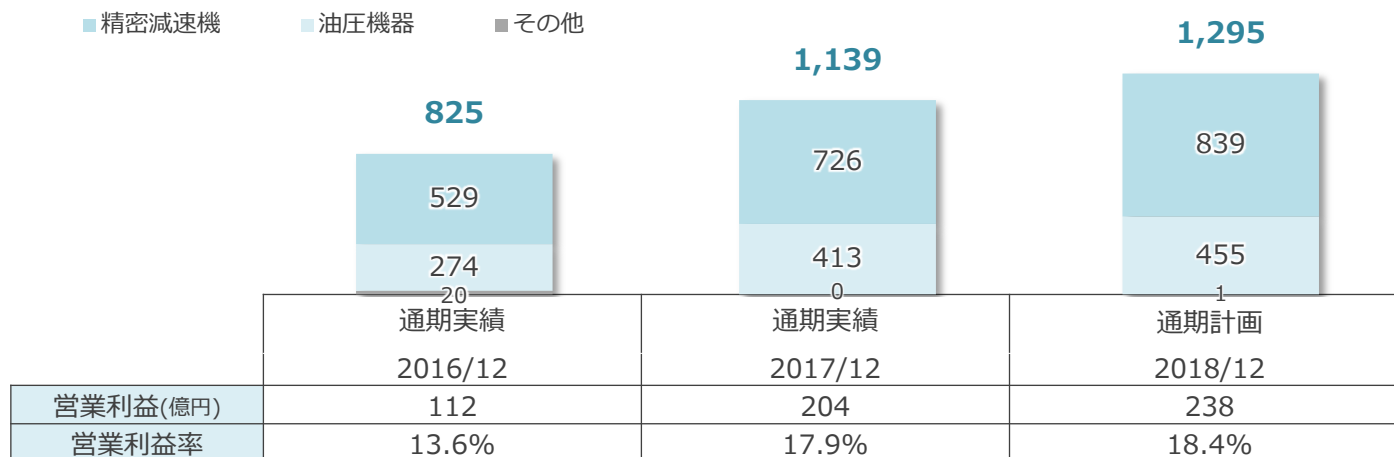
\*当期利益 = 親会社の所有者に帰属する当期利益

# コンポーネントソリューションセグメント (CMP)

■CMPセグメントは、産業用ロボット向け、一般産業向けの精密減速機需要の好調と世界的な建設機械需要の増加により、増収増益の見通し

## 業績実績及び計画

売上高 (億円)



## 2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

**精密減速機**：自動車産業および一般産業の自動化・省人化の需要に支えられ、産業用ロボット向け、一般産業向けの精密減速機の需要が伸長し、増収の見通し。

**油圧機器**：世界的に建設機械需要の増加が見込まれ、増収の見通し。

**営業利益**：増収に伴う増益の見通し。

# トランスポートソリューションセグメント (TRS)

## ■ TRSセグメントは、増収増益の見通し

### 業績実績及び計画

売上高 (億円)

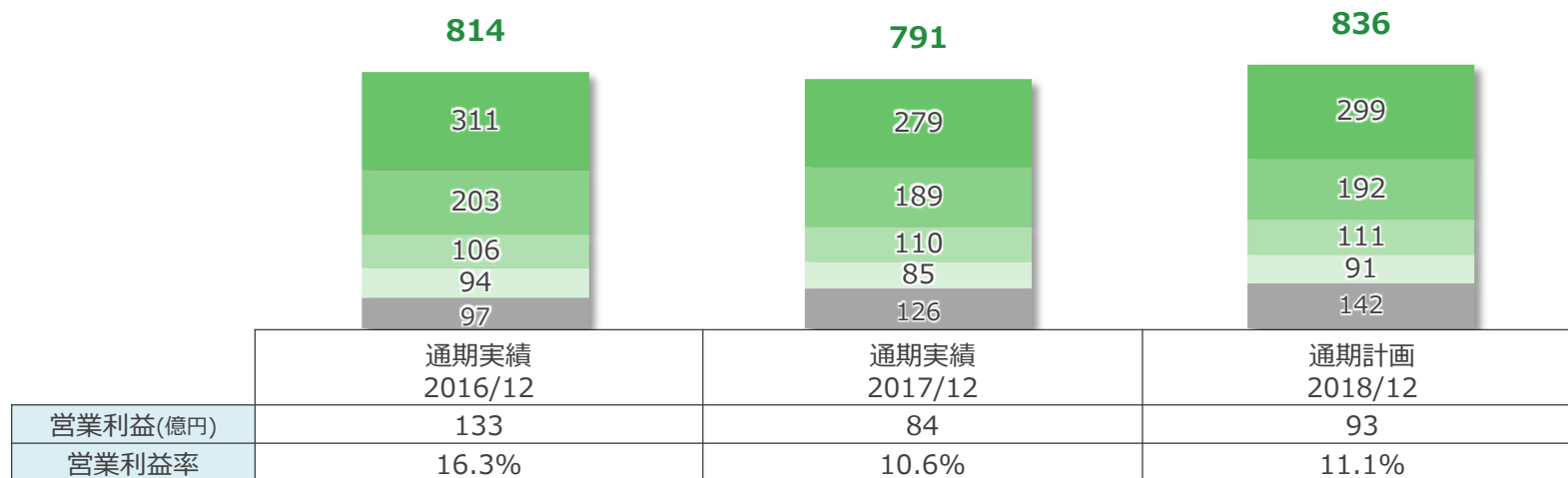
■ 鉄道車両用機器

■ 航空機器

■ 商用車用機器

■ 舶用機器

■ その他



### 2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

鉄道車両用機器 : 国内は堅調な需要を取り込み、中国では地下鉄向け受注拡大により、増収の見通し。

航空機器 : 民間航空機向けの端境期が続き、横ばいの見通し。

商用車機器 : 国内と東南アジア向けを中心に、横ばいの見通し。

舶用機器 : 海運市況の緩やかな回復により、増収の見通し。

営業利益 : 増収および積極的なMROの取り込みにより、増益の見通し。



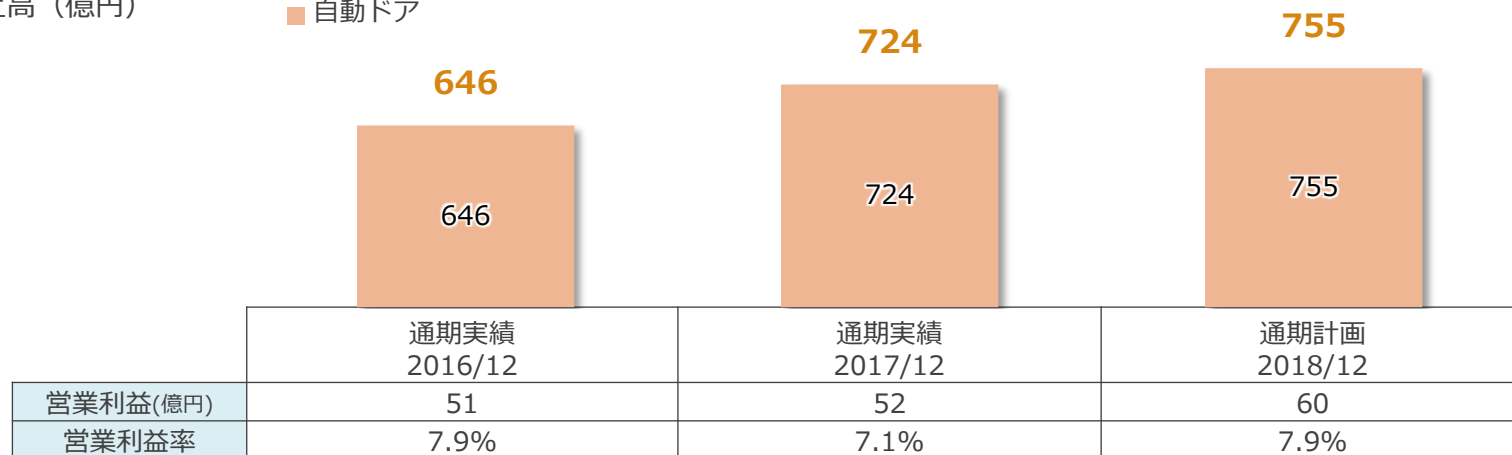
# アクセシビリティソリューションセグメント (ACB)

■ ACBセグメントは、国内外の自動ドア市場が堅調に推移し、増収増益の見通し

## 業績実績及び計画

売上高 (億円)

■ 自動ドア



## 2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

自動ドア : 国内外の建物用ドアおよび国内のプラットホームドアの需要を取り込み、増収の見通し。

営業利益 : 北米子会社のPMI\*<sup>1</sup>コストが減少するも、戦略投資を織込み微増の見通し。

\*1 PMI(Post Merger Integration)

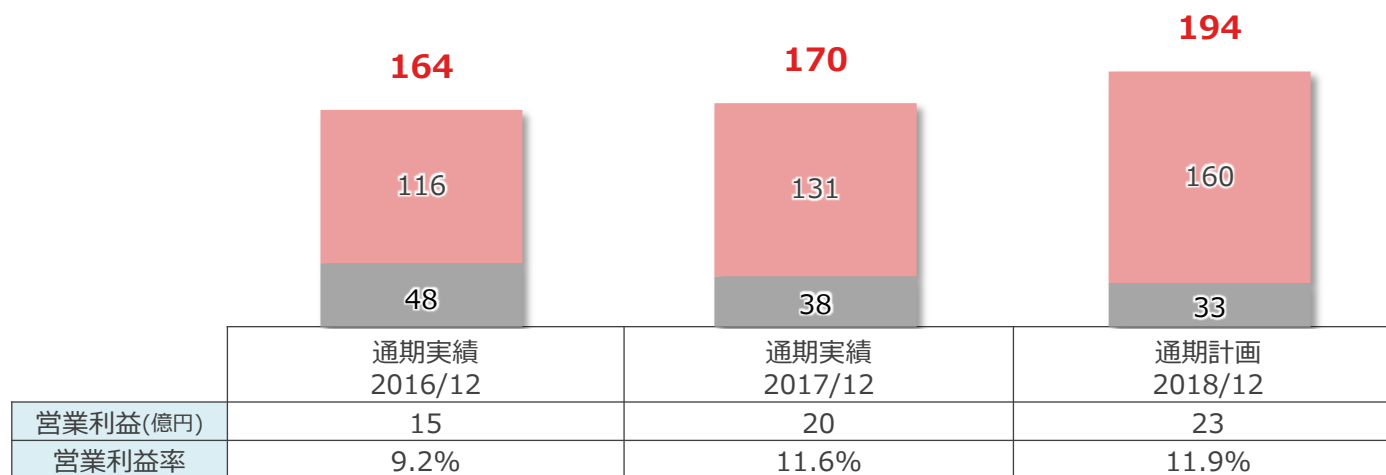
# マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR)

■ MFRセグメントは、包装機事業での好調な国内外食品産業向けの需要により、増収増益の見通し

## 業績実績及び計画

売上高 (億円)

■ 包装機 ■ その他



## 2017/12通期実績 対 2018/12通期計画

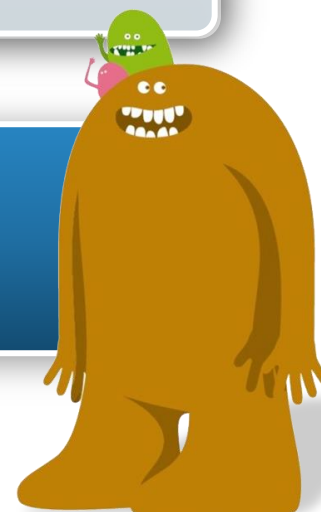
包装機 : 省人化・自動化を背景とした好調な食品産業向けの需要と東南アジアでの拡販により、増収の見通し。

営業利益 : 増収に伴う増益の見通し。

1. 2017年12月期連結業績概況

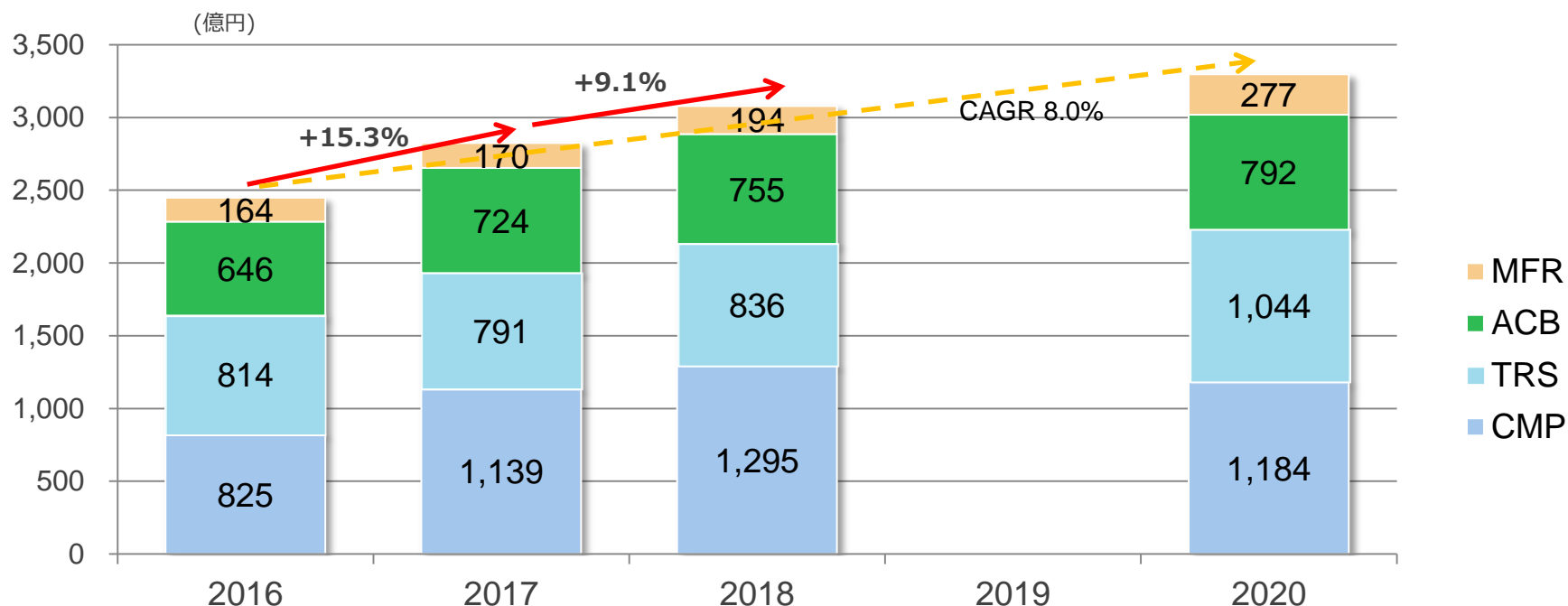
2. 2018年12月期見通し

3. 中期経営計画の進捗



# 中期経営計画売上進捗と2020年売上参考値

## 売上高



	2016年12月期 実績(IFRS)	2017年12月期 実績(IFRS)	2018年12月期 計画(IFRS)	2020年12月期 参考値*** (IFRS)
<b>売上</b>	2,450億円	2,824億円	3,080億円	3,300億円
<b>営業利益</b>	260億円	295億円	326億円	420億円
<b>営業利益率</b>	10.6%	10.4%	10.6%	
<b>当期利益*</b>	186億円	251億円**	257億円	300億円

\*当期利益 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 \*\*2017年12月期実績当期利益には28億円の持分法による投資利益を含む

\*\*\* 2017年中期計画発表時の2020年参考値

**ROE15%達成**

**連結配当性向35%以上**

**ESG課題の解決に注力**

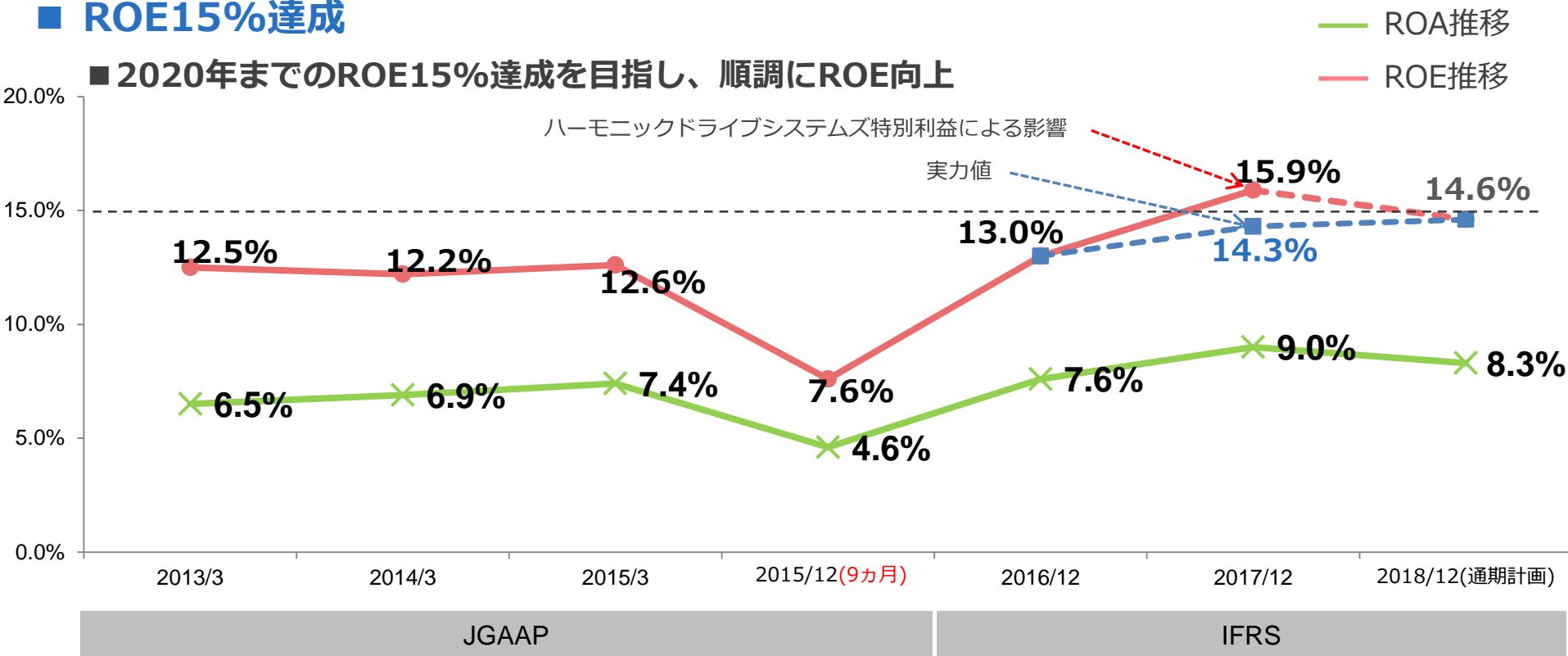
# 中期経営計画の進捗～ROE15%達成～

## ■ 中期計画進捗

- 中期経営計画初年度は想定を上回る実績
- 本年度中に中期経営計画の見直しを検討

## ■ ROE15%達成

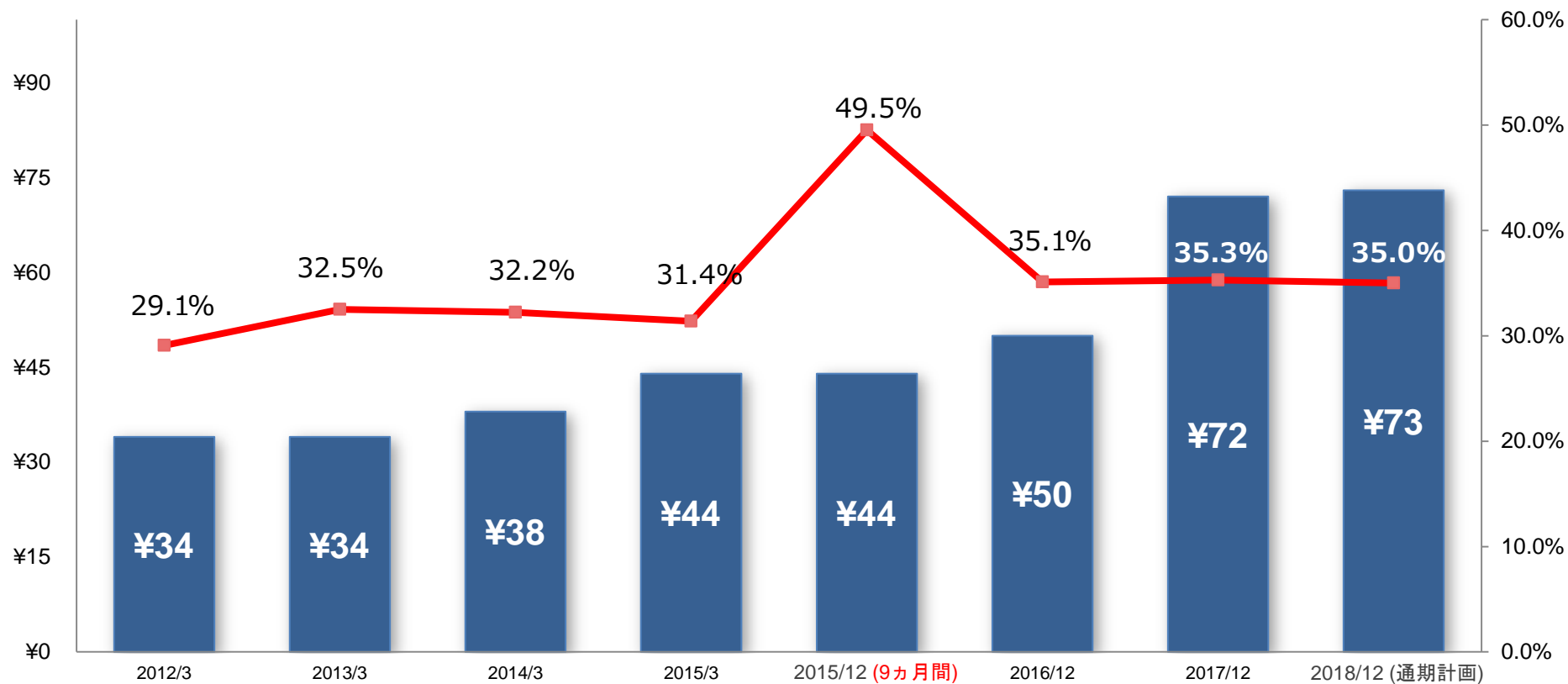
- 2020年までのROE15%達成を目指し、順調にROE向上



# 中期経営計画の進捗～連結配当性向35%以上～

## ■ 連結配当性向35%以上

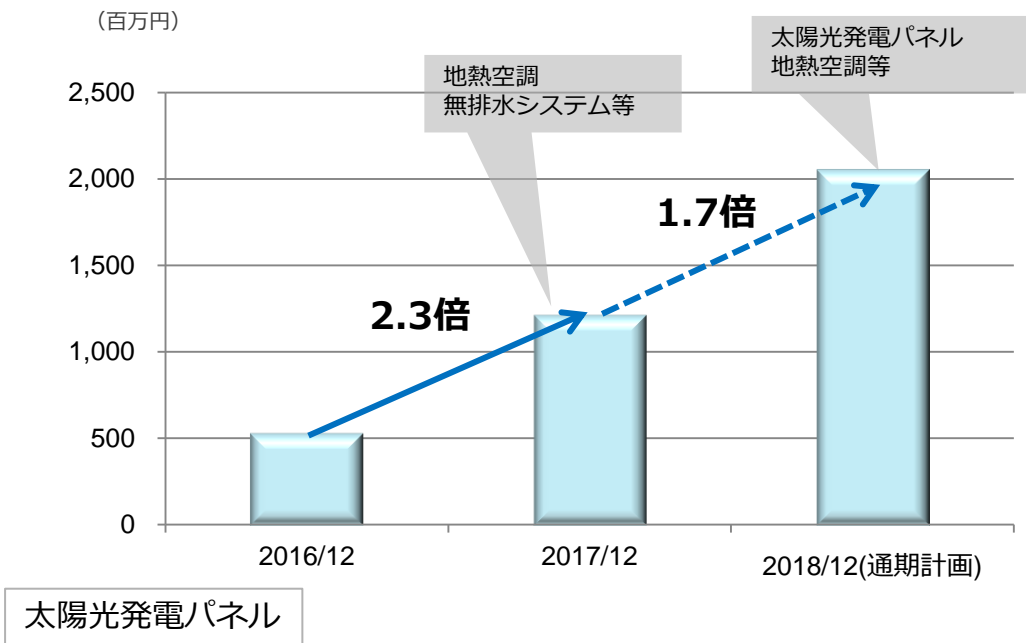
■ 2017年の配当性向は35.3%（2018年以降も配当性向35.0%以上を維持）



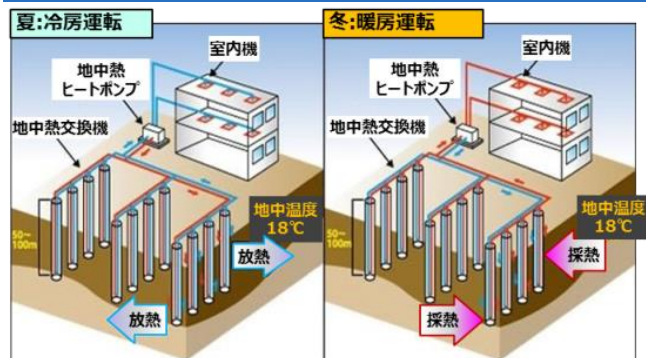
# 中期経営計画の進捗～ESG課題の解決に注力～

## ■ ESG課題の解決に注力①

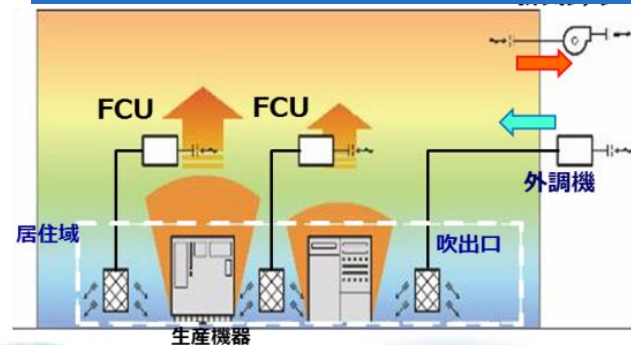
### ■ E-環境設備投資を積極的に実施



### 地熱を利用した冷房、暖房システム



### 空調循環システム



2012年 垂井工場 400kw



2016年 津工場 500kw



2016年 神戸工場 500kw



2017年 精密減速機工場 中国 500kw



# 中期経営計画の進捗～ESG課題の解決に注力～

## ■ E - 外部評価機関からの評価



FTSE4Good FTSE Blossom  
Japan

2009年～

2017年

MSCI



2017 Constituent  
MSCI ESG  
Leaders Indexes

MSCI



2017 Constituent  
MSCI ジャパンESG  
セレクト・リーダーズ指数

2017年

MEMBER OF

**Dow Jones  
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM

Asia Pacific Index 2014年～  
World Index 2016年～

サプライヤー企業”の気候変動対応に  
対する最高評価「The Supplier  
Climate AList2018」に認定  
(2016年、2017年)

+

CDPから気候変動対応の評価  
2016年、2017年

評価項目	認定結果
気候変動	Aリスト企業に認定



CO<sub>2</sub>削減目標がSBT承認獲得  
2017年～

(2015年度比)	2030年	2050年
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	-30%	-80%



SCIENCE  
BASED  
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

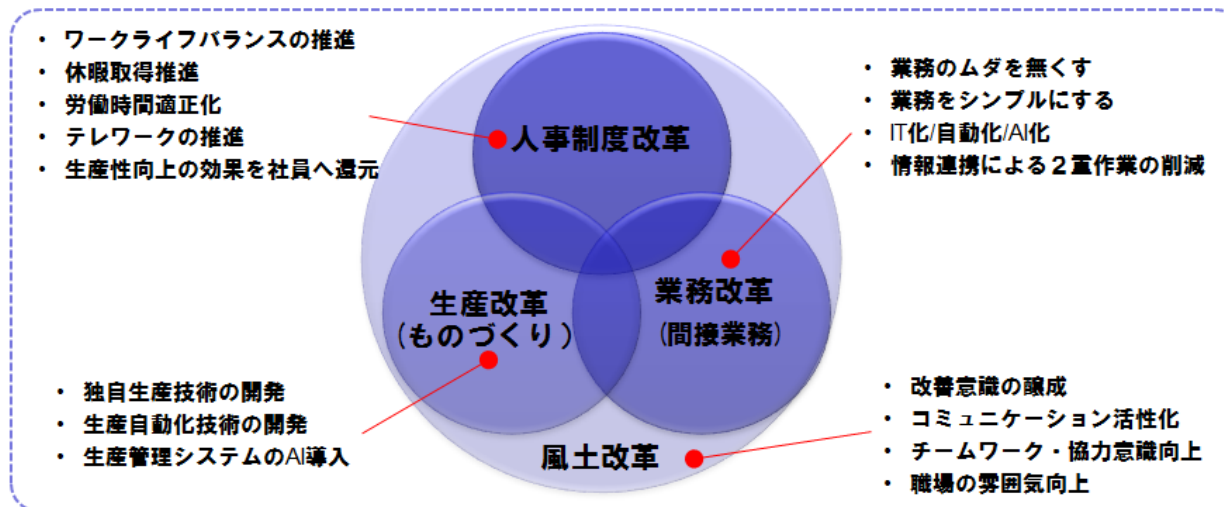
ボーイング・サプライ  
ヤー・オブ・ザ・イヤーを  
受賞 (2016年環境部門)



# 中期経営計画の進捗～ESG課題の解決に注力～

## ■ ESG課題の解決に注力

### ■ S-働き方改革を積極的に取り組み - 17年度に「業務改革推進室」を設置



### ■ S-人権に関わる取組 - 17年度にCSR委員会にて人権尊重に関する国際規範に沿った人権方針を策定。

### ■ G-ガバナンス強化

- ◆ 業務執行責任のさらなる明確化 - 新執行体制の開始日を事業年度と統一
- ◆ リスクマネジメントの高度化 - 体系的なリスクアセスメントを全社で行い、委員会を通じて全社的大重大リスク（情報セキュリティ、不正会計・税務・調達リスク）を特定し、対策を実行
- ◆ コンプライアンス体制を強化 - ナブテスコグループ倫理規範及びナブテスコグループグローバル贈賄防止基本方針を制定

# 中期経営計画の基本方針

～ 基本方針 ～

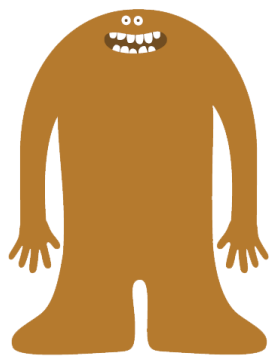
**Move forward! Challenge the future!**

～ Create "New Value 2020" ～



長期ビジョン：2020年の目指す姿

グローバルに成長し続ける  
ベストソリューションパートナー  
～ Enjoy The Challenge ～



New Value  
2020

～ 全社戦略 ～

**Market  
Creation**

新市場の獲得

海外展開、新分野の開拓を  
加速し、新市場を獲得。

**Technology  
Innovation**

新たなソリューションの創造

コンポーネントからシステム、サービスへと、  
新たなソリューションを創造。

**Operational  
Excellence**

収益性・効率性の向上

生産改革、業務改革による収益性向上と、  
資本効率の追求により企業価値を高める。

**Move forward!**

これまでの取組を推進・強化

**Challenge the future!**

新たな挑戦・改革

# 中期経営計画に対する2017年の取り組み ①

## ■ Market Creation・・・海外展開、新分野の開拓を加速し、新市場を獲得 (2016年以降設立)

Gilgen Door Systems  
Scandinavia AB  
ブラッドドアホームの販売・  
施工・保守サービス

Nabtesco ITG GmbH  
商用車用のコンプレッサーの  
設計、販売、アフターサービ  
ス

成都納博特斯克今創軌道設備有限公司  
都市交通向けブレーキの製造、販売、  
アフターサービス

Nabtesco Europe GmbH  
ナブテスコの既出の  
子会社の管理運営

Nabtesco Service  
Southeast Asia Co., Ltd  
ナブテスコグループ製品の  
販売・アフターサービス等

Gilgen Door Systems  
France Sarl  
自動ドアの販売・施工・  
保守サービス。

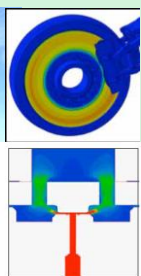
Nabtesco India Private Ltd  
ナブテスコグループ製品の輸  
入・販売・アフターサービス等

OVALO GmbH / adocos GmbH  
シャシーシステム、エンジンシステム製品 /  
開発用ECU、ソフトウェア



## ■ Technology Innovation・・・コンポーネントからシステム、サービスへと、新たなソリューションを創造

「ナブテスコR&D センター」を設立し、一体的な研究開発マネジメント体制を構築



ディスクブレーキのCAE解析

高速電磁弁の連成（構造⇔流体）解析例

システム化・メカトロニクス化技術取得のため、ドイツ OVALO とその子会社であるadcosを買収



adcos社製品



RCP用ECU\*

産学共同でデンマーク工科大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校での共同研究を推進



油圧機器事業において、2015年に買収したハイエストコーポレーションとの共同開発による新製品を発売

小型モデル		Nabtesco		Nabtesco
中型モデル	—			Nabtesco
大型モデル	—			Nabtesco

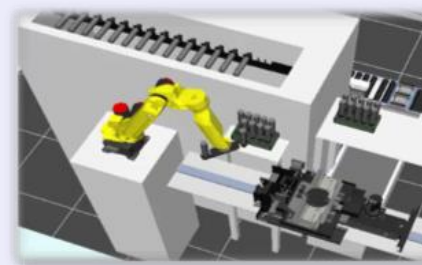


## ■ Operational Excellence . . . 生産の高自動化

### 〈2020年目標〉 生産性向上10% (年率 2.5 %)

#### 機械加工

- ロボット化
- 自動計測・自動判定化

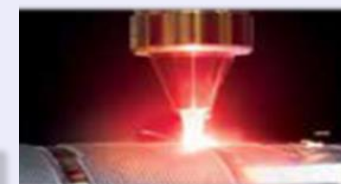
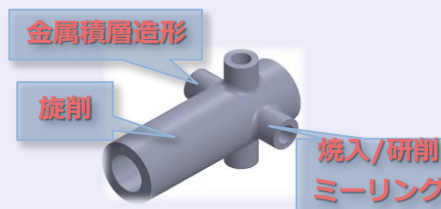


ロボットによる自動工具交換



自動計測・自動判定

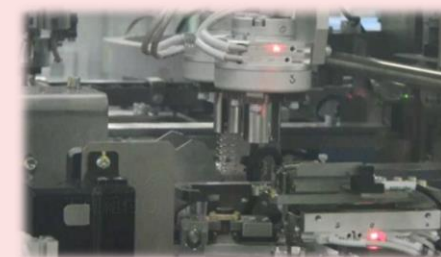
- 革新的生産技術開発
  - AM\* (金属積層造形)
  - 複合加工技術



AM被膜造形

#### 組立/検査

- 自動組付け装置開発
- 自動検査/計測技術開発



自動組付け装置



双腕ロボット組付け

\*AM : Additive Manufacturing

## ■ Operational Excellence . . . 工場管理力強化

〈狙い〉 無駄の排除 ⇒ 生産のスピードアップ

〈目標〉 **〈2020年目標〉 総在庫回転日数 : 25%短縮**

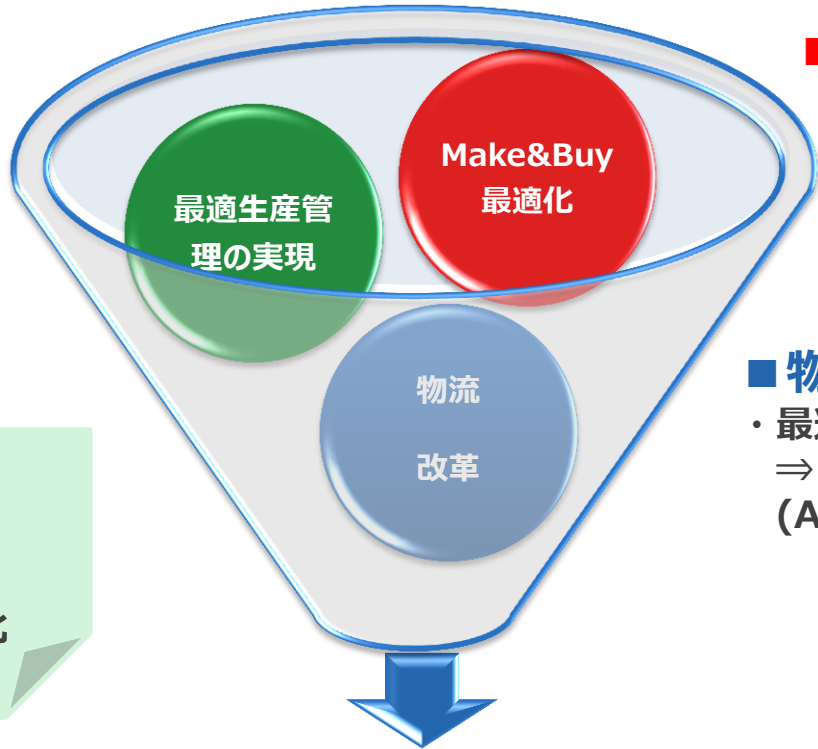
### ■ 最適生産管理の実現

- ・ 流し方法の最適化 (一個流し・バッチ生産)
- ・ 生産ライン最適化 (専用・汎用ライン)



### AI & IoT活用

- ・ AI:自動スケジューリング
- ・ IoT:デジタル化・見える化



### ■ Make & Buy 最適化

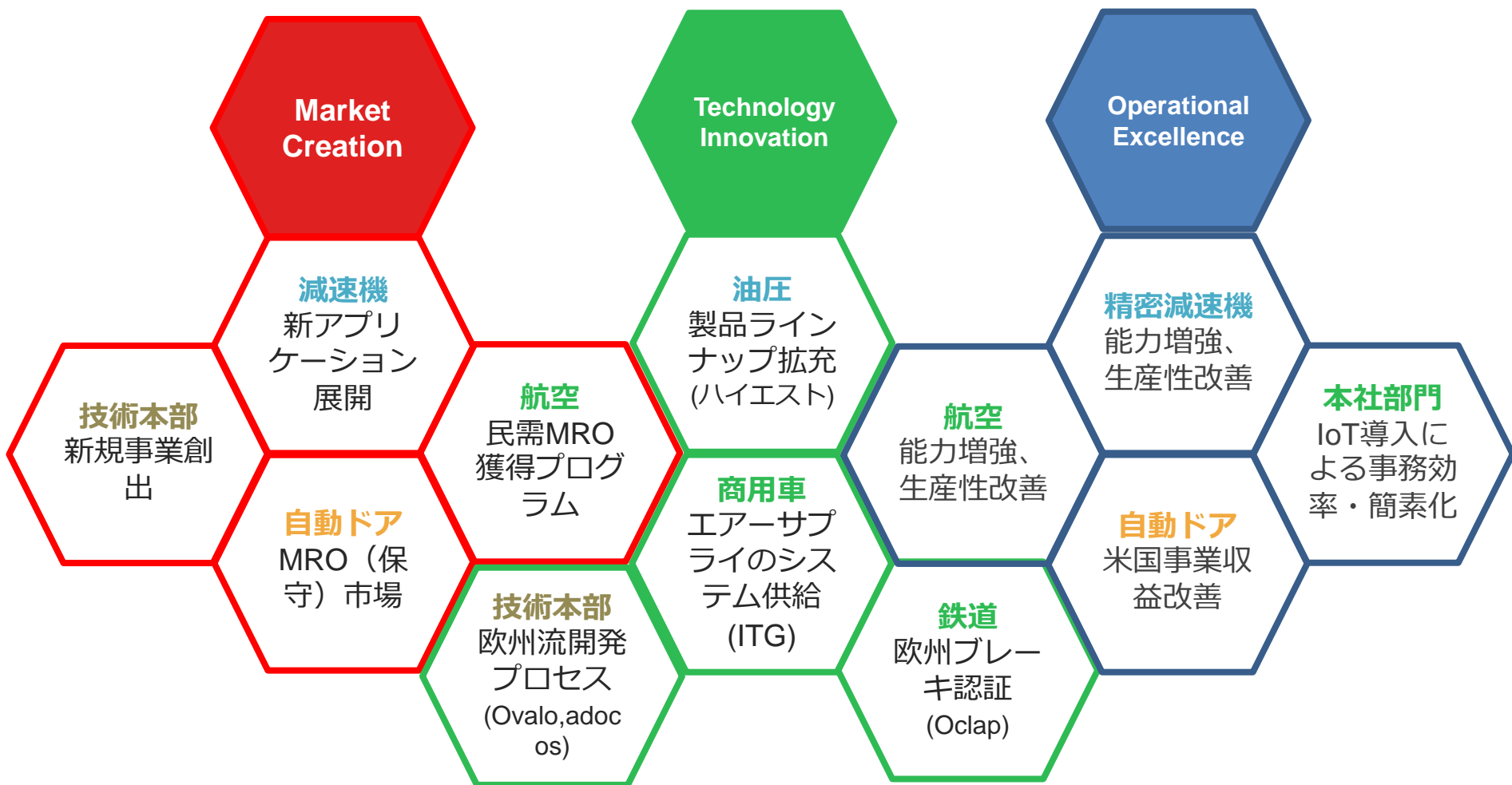
- ・ コア部品/工程の最適化

### ■ 物流改革

- ・ 最適工程設計 ⇒ 最適現場レイアウト + 自動搬送 (AGVの導入他)

生産の見える化徹底

# 2018年成長投資、基盤強化の推進について





## ■ 将来成長のために、精密減速機を中心に設備投資を実施。

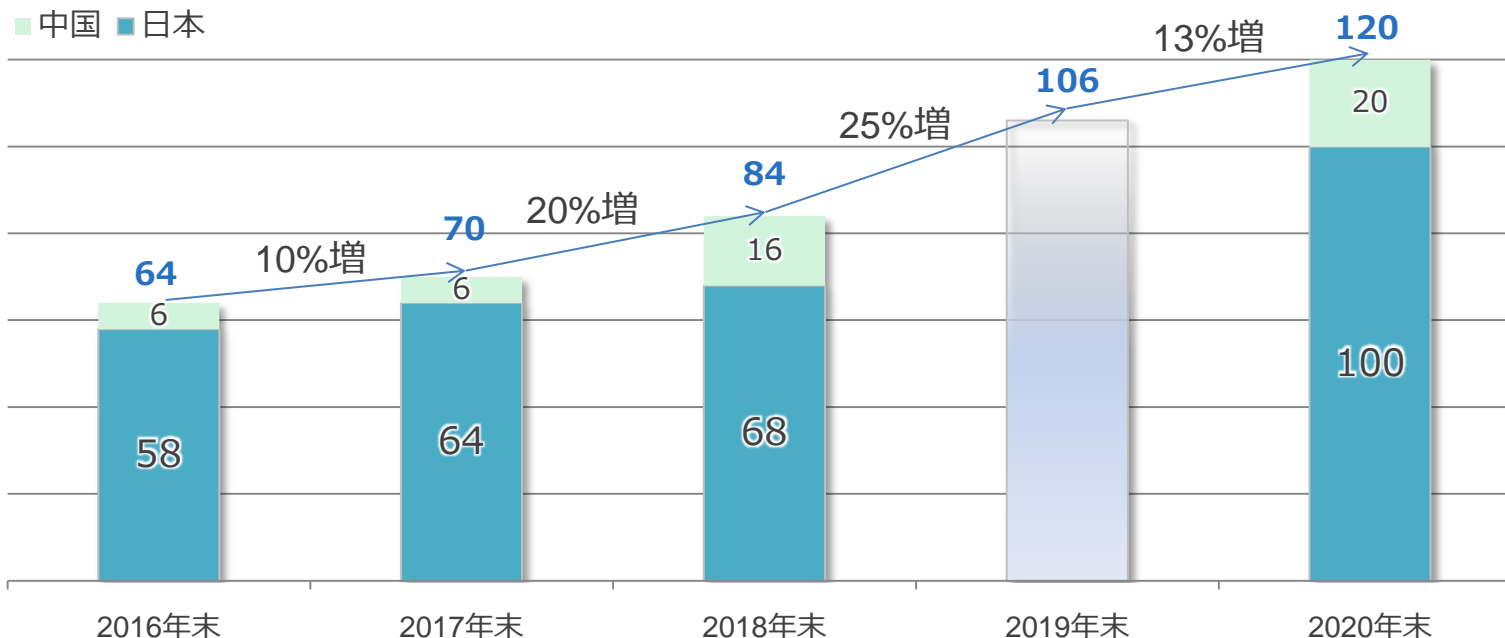
精密減速機：日本工場及び中国工場における生産能力増強

航空機器：新プログラムに向けた増産体制構築

(単位：億円)	2016/12 通期実績	2017/12 通期実績	2018/12 通期計画	2017- 2020 4年間合計
設備投資額	145	155	304	770
研究開発費	74	87	102	400

## 精密減速機 定時生産能力拡張

(年産能力：万台)



- 2020年までに日本工場と中国工場を合わせて、年産120万台体制を目指す。
- 2017年末～2020年までの能力増強に伴い、合計260億円の設備投資を実施。
- International Federation of Robotics(2017年9月発行)によると2017年～2020年までに世界で導入されるロボットのCAGRは+15% (このうち中～大型ロボットの市場成長率は5～10% ※弊社予想)



精密減速機 中国工場 (常州市)  
2016年～製造開始

## 民間航空機 新工場の設立



表面処理工場

2016年竣工



精密部品工場

2016年竣工



アクチュエーター工場

2018年竣工（予定）

■ 3棟の新工場設立に伴い、合計100億円の設備投資を実施。

## 民間航空機 新プログラム



B737MAX

■ 2016年納品開始

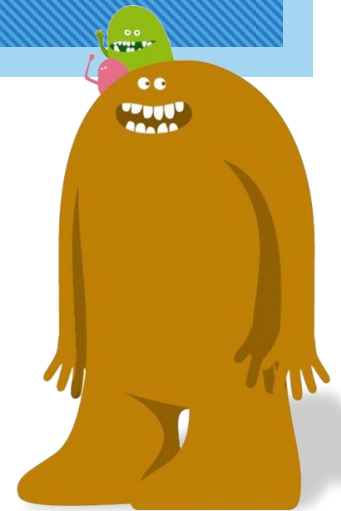


B777X

■ 2019年納品開始

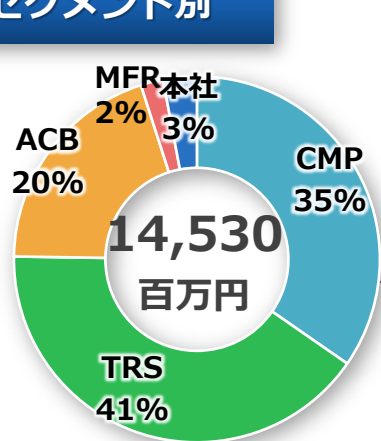


# Appendix

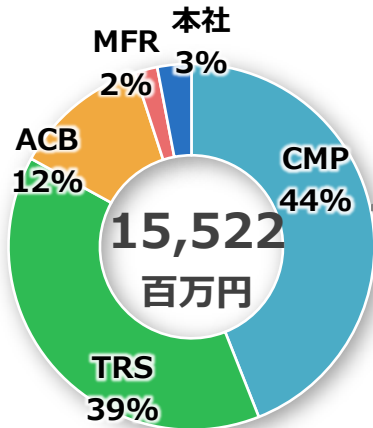


# 設備投資額内訳

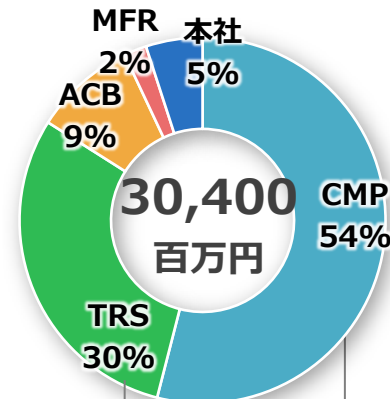
## セグメント別



- 精密減速機  
-中国新工場設備納入等

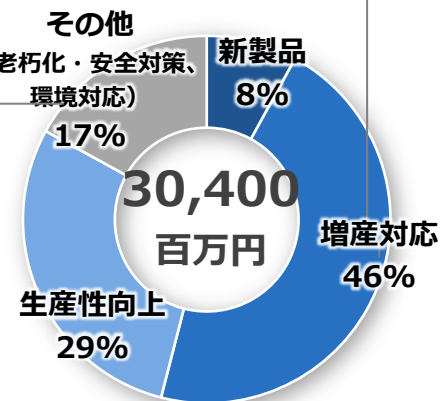
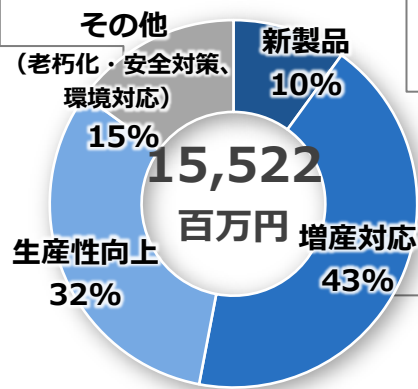
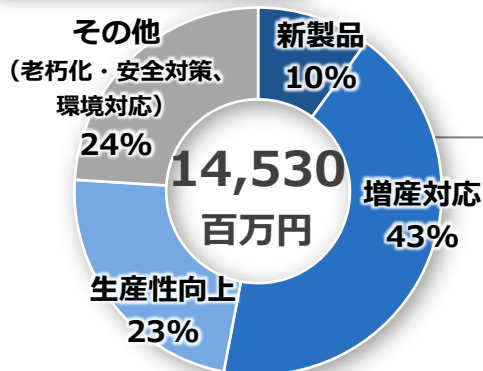


- 環境関連投資
- 研究開発関連投資



- 精密減速機  
-日本中国での増産投資
- 航空機器  
-岐阜工場設備増強

## 目的別

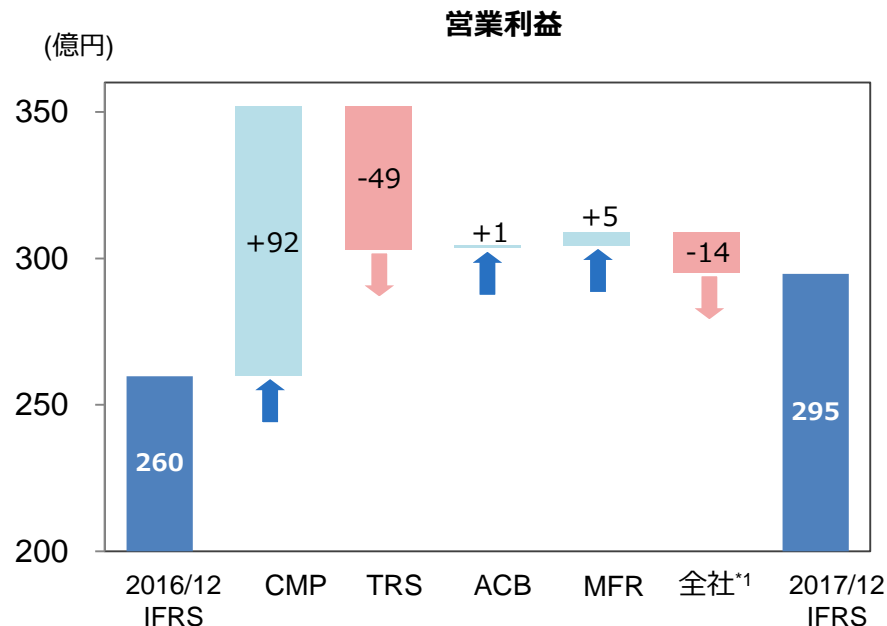
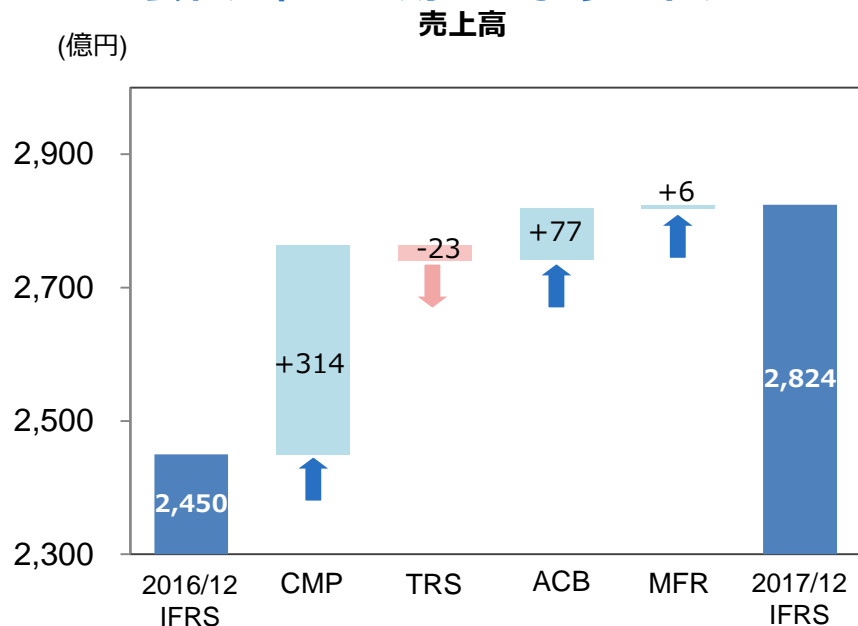


# 通期セグメント別業績概況

(単位：百万円) セグメント	項目	2016/12 実績	2017/12 修正計画	2017/12 実績	2018/12 通期計画	2020/12 中期計画参考値
コンポーネント ソリューション (CMP)	売上高	82,473	103,600	113,885	129,500	118,400
	営業利益 (営業利益率)	11,231 (13.6%)	18,200 (17.6%)	20,432 (17.9%)	23,800 (18.4%)	22,200 (18.8%)
トランスポート ソリューション (TRS)	売上高	81,426	80,600	79,134	83,600	104,400
	営業利益 (営業利益率)	13,269 (16.3%)	10,200 (12.7%)	8,383 (10.6%)	9,300 (11.1%)	17,200 (16.5%)
アクセシビリティ ソリューション (ACB)	売上高	64,634	71,100	72,374	75,500	79,200
	営業利益 (営業利益率)	5,087 (7.9%)	5,800 (8.2%)	5,168 (7.1%)	6,000 (7.9%)	7,900 (10.0%)
マニファクチャ リング ソリューション (MFR)	売上高	16,435	17,700	17,029	19,400	27,700
	営業利益 (営業利益率)	1,507 (9.2%)	1,600 (9.0%)	1,983 (11.6%)	2,300 (11.9%)	3,200 (11.6%)
本社又は消去		-5,112	-7,400	-6,498	-8,800	-8,500
連結合計	売上高	244,968	273,000	282,422	308,000	330,000
	営業利益 (営業利益率)	25,982 (10.6%)	28,400 (10.4%)	29,468 (10.4%)	32,600 (10.6%)	42,000

# セグメント別売上・営業利益変動要因分析（2016/12通期比）

## ■好調な産業用ロボット向け精密減速機需要・中国の建設機械向けの需要回復および自動ドア販売会社連結化の効果により増収、増益



**コンポーネント(CMP)**：自動化、省人化需要による産業用ロボット向けや一般産業向けの精密減速機が好調。中国の建設機械向け需要で増収、増益。

**トランスポート(TRS)**：鉄道車両用機器は中国高速車両向けで減収。航空機器向けはB777のモデルチェンジの端境期で減収。舶用機器は造船市況の低迷により減収。商用車機器は国内需要が堅調で増収。セグメント全体では減益。

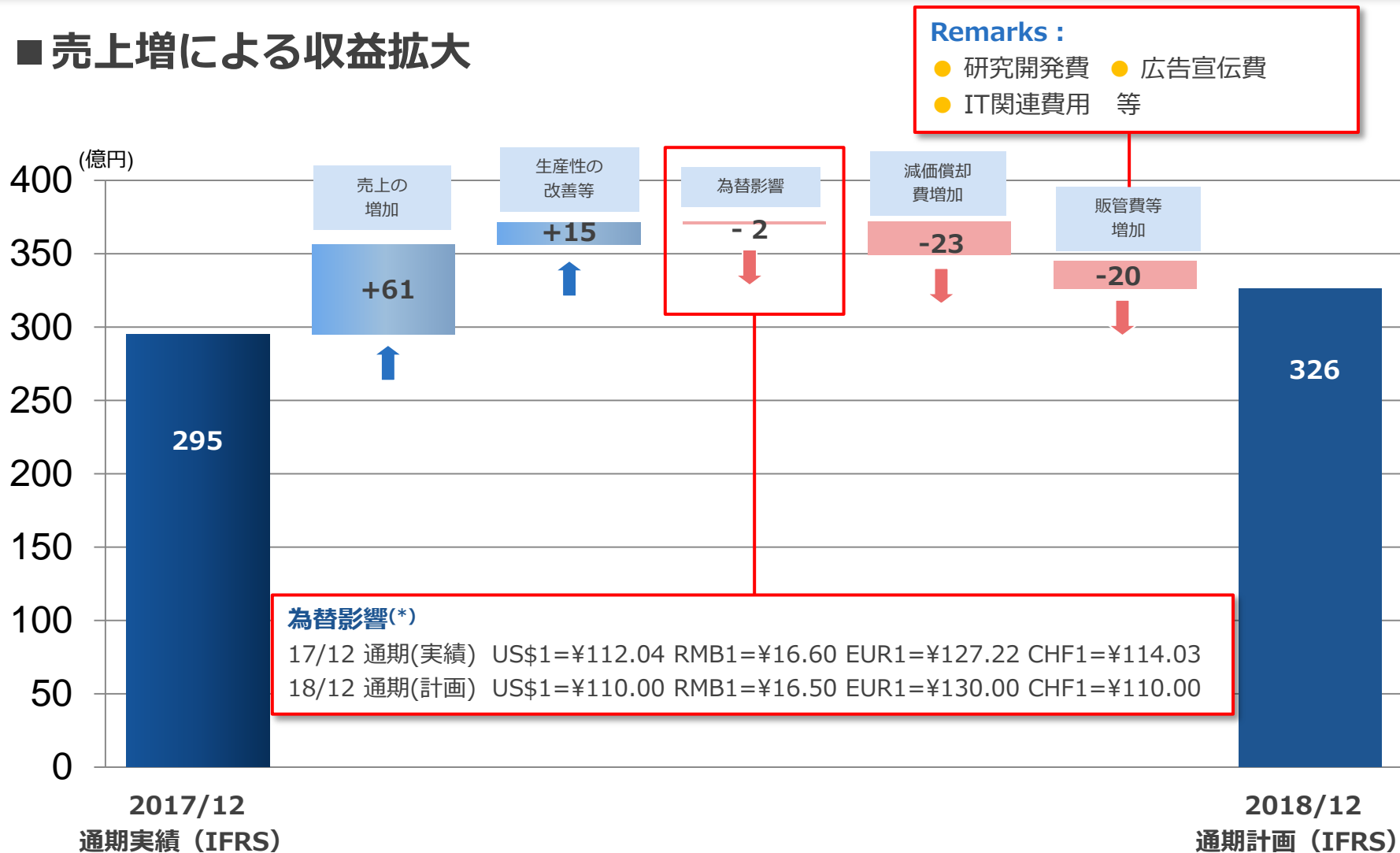
**アクセシビリティ(ACB)**：国内の堅調な需要と買収による連結子会社化(1四半期)で増収も、北米子会社のPMI\*<sup>2</sup>コストにより増益幅は限定的。

**マニュファクチャリング(MFR)**：包装機事業で国内の省人化ニーズを取込むことで増収。

\*<sup>1</sup> 全社又は消去 \*<sup>2</sup> PMI(Post Merger Integration)

# 全社営業利益変動要因分析（2017/12通期比）

## ■ 売上増による収益拡大



\*為替感応度(為替が1円変動したときの営業利益に対する影響) : 米国ドル 40百万円 人民元 299百万円、ユーロ軽微、スイスフラン軽微



# バランスシート（2016/12期末比）

## ■ 成長投資を着実に実施しつつ、健全なバランスシートを維持

(単位：百万円)

	2016/12期末 2016年12月31日現在	2017/12期末 2017年12月31日現在	差異
資 産	256,973	301,557	44,584
（ 現 預 金 等 ）	41,780	44,121	2,341
（ 営 業 債 権 ）	65,569	76,874	11,305
（ 棚 卸 資 産 ）	32,704	40,298	7,594
（ 有 形 固 定 資 産 ）	63,155	70,700	7,545
負 債	101,070	124,556	23,486
（ 社 債 及 び 借 入 金 ）	16,949	27,720	10,771
資 本	155,904	177,002	21,098
（ 非 支 配 持 分 ）	7,974	9,465	1,491
親 会 社 所 有 者 帰 属 持 分	147,929	167,537	19,607
親会社所有者帰属持分比率：	57.6%	55.6%	-

## CMPセグメント 精密減速機

日本ロボット工業会によると、17年7～9月期のロボットの生産額は1890億円で、**前年同期比で34%増えた**。先行きにも強気で、**18年通年の生産額は前年比1割増の1兆円を見込む**。工業会の会長も務めるファナックの稲葉会長は「需要拡大は今後5年なんてものじゃない。2兆円も通過点だ」と強調する。

2018年1月28日 日経ヴェリタス記事

## CMPセグメント 建設機械

日本建設機械工業会が31日発表した2017年の建設機械出荷額（補給部品を含む総額）は、**16年比19.1%増の2兆5513億円で、3年ぶりに増加**した。インフラや住宅建設で建機需要が高まった北米やアジアなど外需が全体をけん引し、国内も排ガス規制の強化を控えた駆け込み購入が広がった。海外では世界的な景気拡大を追い風に、幅広い地域向けに出荷が伸びている。**中国は建機の現地生産が多いが、16年末から中国市場が持ち直し、17年は年間を通して需要が安定的に推移**した。

2018年2月2日 日経産業新聞

「中国の建機販売は高い伸びが持続している」。1月31日の電話会見でコマツの稲垣泰弘常務執行役員はこう語った。

2018年2月1日 日経新聞

## TRSセグメント 船用機器

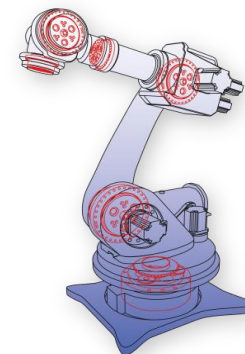
海運会社は中国の環境規制が追い風だ。中国の鉄鋼メーカーが品質の高いブラジル産やオーストラリア産の鉄鉱石の使用を増やし、**荷動きが活発化**している。資源を運ぶばら積み船の運賃指標の**バルチック海運指数は17年平均で4年ぶりの高い水準**だった。

2018年2月4日 日経ヴェリタス記事

# コンポーネントソリューションセグメント (CMP) 主要製品

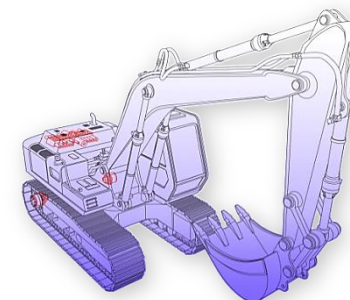
## 精密減速機

### ■ 産業用ロボットの関節用途

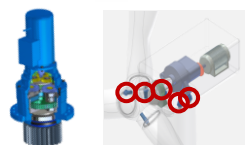


## 油圧機器

### ■ パワーショベル用走行ユニット



### ■ 風力発電用駆動装置



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

### ■ 油圧機器

走行ユニット：コマツ、コベルコ建機、住友建機、Sany (中)、XCMG (中)、Liu Gong (中)

風力発電機用駆動装置：三菱重工業、日立製作所、他

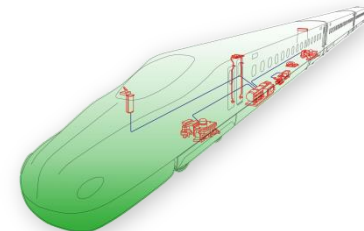
# トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

## 鉄道車両用機器

### ■ 鉄道車両用ブレーキシステム



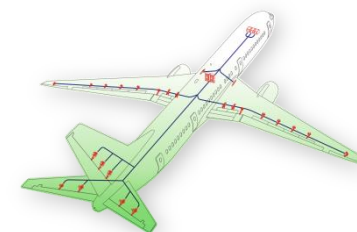
### ■ 鉄道車両用ドア開閉装置



## 航空機器

### ■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)

- FCAでは世界4強の1社(ボーイングの主要サプライヤー)
- エンジン補機、電源システム等へも事業展開



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

### ■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

# トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

## 商用車用機器

### ■ 商用車用ウェッジチャンバー

Others



No.1

国内シェア約**70%**

### ■ 商用車用エアドライヤー

Others



No.1

国内シェア約**75%**



## 舶用機器

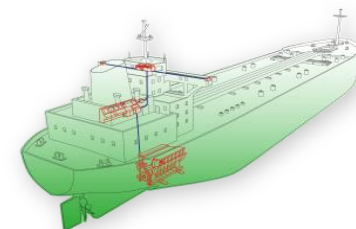
### ■ 舶用エンジン遠隔制御システム

Others



No.1

国内シェア約**50%**  
(世界シェア約40%)



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 商用車用機器

日野自動車、いすゞ自動車、三菱ふそうトラック・バス、UDトラックス

### ■ 舶用機器

川崎重工業、三井造船、(株)マキタ、日立造船、三菱重工業、  
Hyundai Heavy Industries (韓)、Doosan Engine (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、MAN Diesel (デンマーク)

# アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) 主要製品

## 自動ドア

### ■自動ドア開閉装置



### ■プラットホームスクリーンドア



## 主要顧客 (敬称略)

### ■自動ドア

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関

プラットホームドア：フランス地下鉄、中国地下鉄、他

# マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

## 包装機

### ■レトルト食品用充填包装機



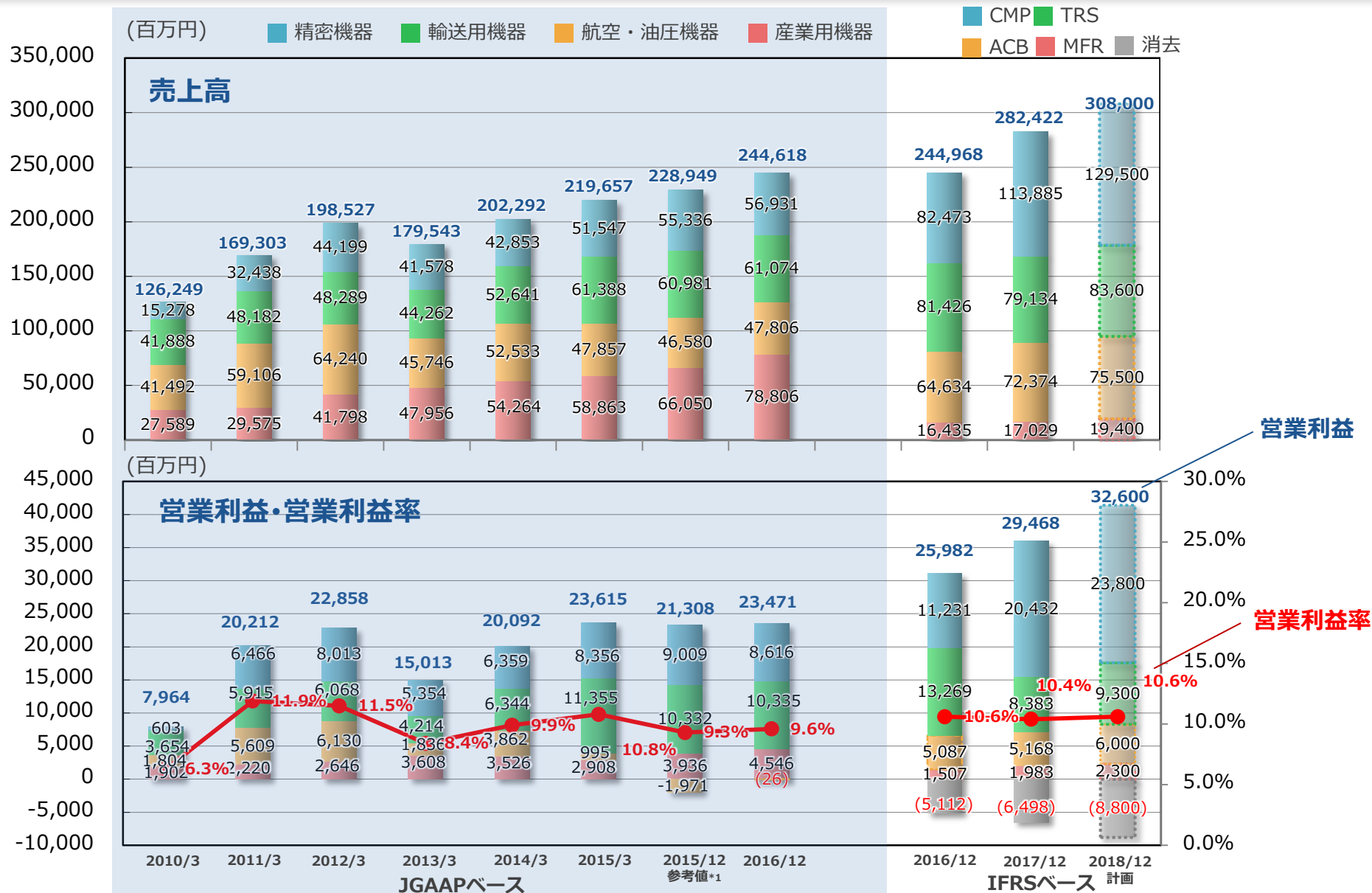
## 主要顧客 (敬称略)

### ■包装機

三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

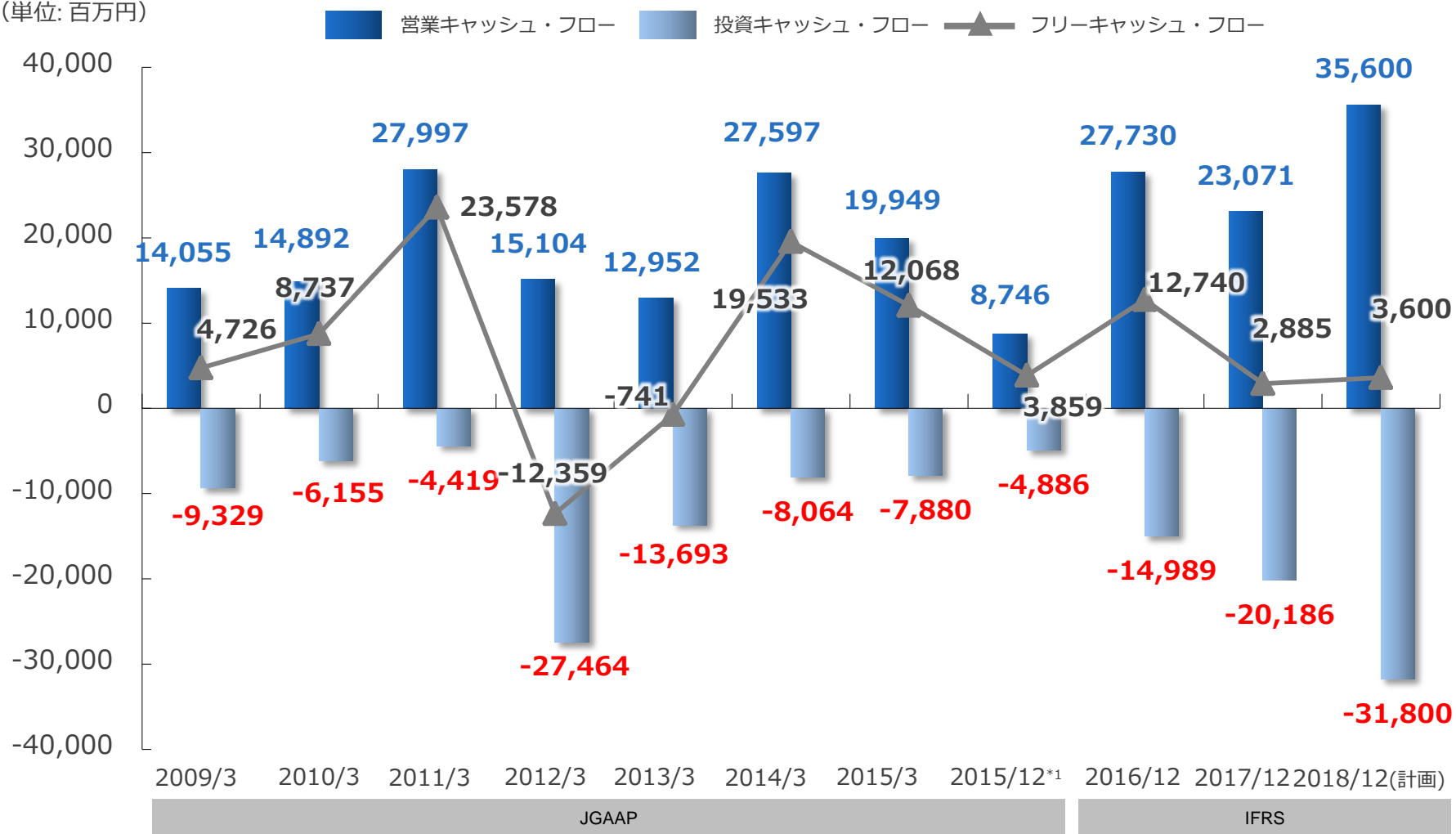


# 事業セグメント別 売上高・営業利益推移(12カ月)



# 連結キャッシュ・フロー

(単位: 百万円)



\*1 「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期実績(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご注意ください。



うごかす、とめる。

# Nabtesco

